

第2回 向陽学府新たな学校づくり検討会 会議概要

1	開催日時	令和2年11月5日(木)
2	開催場所	磐田市役所防災センター2階会議室
3	出席者(向陽学府新たな学校づくり検討委員)	
	学識経験者	千葉大学大学院工学研究科教授
	地区代表	向笠地区長 向笠地区住民代表 大藤地区長 大藤地区住民代表 岩田地区長 岩田地区住民代表
	保護者代表	向笠小学校PTA代表 大藤小学校PTA代表 岩田小学校PTA代表 向笠幼稚園PTA代表 大藤こども園PTA代表 岩田こども園PTA代表
	学校・園代表	向陽中学校長 向笠小学校長 大藤小学校長 岩田小学校長代理 向笠幼稚園長 大藤こども園長 岩田こども園長 向陽学府CSD
4	出席職員	教育部長 教育総務課長 学校教育課長 高齢者支援課長
5	事務局	学府一体校推進室

議事

(1) 特色ある教育活動について

向陽学府一体校に残していきたい教育活動、新たに取り入れたい教育活動について話し合いました。

委員の方からは、「そば打ちや干し芋、豆腐作りなど地域と協働して実施している教育活動については、向陽学府小中一体校開校後も継続し、これまでと同じように地域と深くつながる学校づくりを進めてほしい。」という意見や「短縄跳びや一輪車など伝統的に開催している行事をなくさないでほしい。」などの意見が出されました。

特色ある教育活動については、今後、学府運営協議会等において継続的に協議を進めていくことになりました。

(2) 向陽学府における学府一体校の形態について

人と人との深いつながりを大切に、多様な人々と協働しながら問題を解決していく力や自分が目指すものや自分がどうなりたいかを描く力が重要となるこれからの時代に向けて、多くの仲間等との交流の中で、これまで以上に人とつながる力やたくましさを育むことができる「未来型学府一体校」とする案が事務局より提案されました。

委員の方からは「地域から提出した要望書は未来型一体校をイメージしたものである。」「今後の人口推移を見ると未来型一体校がふさわしい。」「低学年がいると上級生はしっかりしなくてはいけないという意識が働くなどのよさがある。」等の意見が出され、向陽学府小中一体校を未来型学府一体校とすることで意見がまとまりました。

(3) 向陽学府小中一体校の建設地について

向陽学府小中一体校の建設地として、向陽学府の小中学校だけでなく、既存の学校敷地の拡張や新たな敷地の確保等、これまで検討した結果について事務局より報告があり、未来型学府一体校建設に必要な面積、整備に必要となる時間、人口の分布状況等の視点から、建設地を向陽中学校の敷地とする案が提案されました。

委員の方からは、「向陽中学校の敷地で良いと思うが、複数の学年の保護者が集まっても十分な駐車場を確保してほしい」「向陽中学校北側の道路を拡幅するなどして、事故がないように計画してほしい」等の意見が出され、向陽中学校の敷地を学府小中一体校の敷地とすることで意見がまとまりました。